

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 26 年 4 月 23 日

1. 渡航者			
氏名	河原 大輔	採択年度	平成 24 年度
部局	情報学研究科	電話	
職名	准教授	メール	
研究課題名	教師有り・なし手法を統合した多言語依存構造解析システムに関する研究		
海外渡航期間	平成 25 年 3 月 25 日～平成 26 年 3 月 23 日		
2. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：アメリカ合衆国 大学等研究機関名：コロラド大学ボルダー校 研究室名等：ICS/CLEAR 受入研究者名：Martha Palmer 教授		
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：Atlanta, USA 目的：国際会議 NAACL-HLT2013 に参加し情報収集するとともに、参加者と議論した。 期間：平成 25 年 6 月 8 日～6 月 13 日 出張先：名古屋 / Seattle, USA 目的：国際会議 IJCNLP2013(名古屋)に参加し口頭発表した。また、国際会議 EMNLP2013(Seattle, USA)に参加し参加者と議論した。 期間：平成 25 年 10 月 13 日～10 月 22 日 出張先：日光 目的：Crest 第 1 回研究ミーティングに参加し、知識に基づく文脈解析に関する議論を行った。 期間：平成 25 年 12 月 4 日～12 月 8 日 出張先：New York, USA 目的：Rakuten Institute of Technology at New York 所長の関根聡氏と議論した。 期間：平成 26 年 1 月 12 日～1 月 15 日		
3. ジョン万プログラムによる成果			
以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ページ数については増加してもかまいません。			

<p>国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Daisuke Kawahara, Daniel W. Peterson, Octavian Popescu and Martha Palmer. Inducing Example-based Semantic Frames from a Massive Amount of Verb Uses, In Proceedings of the 14th Conference of the European Chapter of the Association for Computational Linguistics (EACL2014), 2014 (to appear). 2. Daisuke Kawahara and Martha Palmer. Single Classifier Approach for Verb Sense Disambiguation based on Generalized Features, In Proceedings of the 9th International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC2014), 2014 (to appear). 3. Daisuke Kawahara, Daniel W. Peterson and Martha Palmer. A Step-wise Usage-based Method for Inducing Polysemy-aware Verb Classes, In Proceedings of the 52nd Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL2014), 2014 (to appear).
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施 (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>受入研究者の Martha Palmer 教授とは、テキスト意味解析、事態間関係知識獲得などの研究において、今後も共同研究を進めることを検討中である。更なる外部資金獲得も視野に入れて、検討していきたいと考えている。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化 (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>イタリア・トレントにある研究機関 Fondazione Bruno Kessler (FBK) の研究者 Octavian Popescu が同時期にコロラド大学ボルダー校を訪問しており、彼と共同研究を行い、論文を共同で執筆した。今後、FBK に訪問し、さらに共同研究を深化することを検討している。また、米国滞在中に、New York の楽天技術研究所を訪問し、同研究所の研究者らと交流した。今後も継続的に意見交換することを検討している。</p>

<p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p>	<p>我々の研究分野においては、人手による言語リソースの開発が重要であるが、渡航先の研究室では、言語リソースの開発を大勢の学生を雇用して効率的に行っており、今後の研究展開方法の参考になった。</p>
<p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>特になし</p>